

地方公道局がゴム農家を支援。2020年度の公道整備に1.8万トンのゴム利用予定。

ターンセタキット新聞  
2019年3月4日  
<http://www.thansettakij.com/content/396515>

タイ政府のゴム問題対策に応え、地方公道局が、2020年度（2019年10月～2020年9月）に全国の公道整備事業に1.8万トンのゴム利用を予定。

アーコム・タムピッタヤーパイシット交通大臣が、国道局及び地方公道局に対し、政府のゴム農家支援策に応えるため、全国における国道や公道の整備事業にアスファルト混合のゴム活用を増大させるよう指示。公道、橋、道路上の標識等の安全器具備品の設置にも、できる限りゴムを活用するよう指示したことを明らかにした。

一方で、クリッテープ・シムリー交通省副事務次官は、2013年～2018年まで交通省所管の道路整備事業に既に33,620トンのゴム利用実績があることを明らかにした。また、所管の道路整備事業のゴム活用は、政府の公的機関によるゴム利用拡大策に応える一方で、ゴムの混合により、従来型の道路整備よりも路面接触の安全性が増すことも明らかにした。2019年度の全国の道路整備事業に総工事費約13,293百万バーツ、約11,300トンのゴム活用を予定。更に2020年度は、ゴムの混合率を5%から8%に増大し、生ゴム約18,000トンの利用、総工事費約21,145百万バーツを予定している。また、全国800,000か所の道路上にあるカーブ誘導ブロックをゴム混合仕様に変更、予算役1,600百万バーツを投入予定。

更に、交通省は公益法人タイゴム機構と協力し、全国の道路標識、歩道、バリア、ガードレール、速度抑制ランブルストリップ等の製作にもゴムの活用を探り、政府のゴム内需拡大策に支援することを明らかにした。